

視察調査報告書

委員会名	文教経済委員会
参加者	委員長 畑尻 宣長 副委員長 原田 範次 委員 大原 昌幸 三塩 菜摘 近藤 敏浩 井町 圭孝 磯部 亮次 三宅 健司 中根 武彦
視察日時	令和5年1月25日（水）13:30～15:30
視察先・概要	埼玉県川越市 人口：353,183人 世帯数：165,838世帯 面積：109.13km ²
視察項目	「ポストコロナを見据えた観光施策」について
視察概要	<p>1 中心市街地の構成</p> <p>中心市街地は北部市街地と南部市街地で構成されている。北部市街地は観光（歴史的）ゾーンと位置づけ、蔵造りの町並みがある。南部に駅ができたことにより一時は衰退したが、市民等による保存運動などを契機に数多くの復興事業が手がけられた。南部市街地は商業（近代的）ゾーンと位置づけ、三つの駅を中心にして、金融・サービス・商業などが集積し、最も人の動きがあるエリアである。川越駅西口にはペDESTリアンデッキや、U PLACE（商業施設+行政施設+宿泊施設）やウェスタ川越（商業施設+行政施設（大ホール、県施設等））などがある。</p> <p>2 観光資源</p> <p>蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁、川越城跡、喜多院、仙波東照宮、川越氷川神社、近代洋風建築、川越まつり、新河岸川の舟遊、さつまいも、うなぎ、川越太麺焼きそば、などがある。</p> <p>3 第二次川越市観光振興計画の概要と特色</p> <p>(1) 目的 市民が誇れる観光都市の実現</p> <p>(2) 基本理念 世界に発信しよう！EDOが粹づくまち 小江戸川越</p> <p>4 観光施策の課題と課題解決のための戦略的重点施策</p> <p>(1) 観光時間が日中の短時間となっており、伸び悩んでいること。 新たな観光事業の推進により、日中以外の時間帯での観光需要を創出することが求められている。 戦略的重点施策は回遊性の向上、早朝・夜間の観光の推進。</p> <p>(2) ICTの活用が不十分であること。 各種事業にICTを活用することにより、観光客の利便性及び</p>

	<p>満足度の向上が求められている。</p> <p>戦略的重点施策は観光客の動態把握、SNS等による観光情報の発信、デジタル技術を活用した情報発信と観光案内サービスの推進。</p> <p>(3) 外国人観光客数の受入れ環境が不足していること。 外国人観光客が自由にまち歩きを楽しめる受入れ環境の整備が求められている。 戦略的重点施策は外国人観光客の受入れ環境の整備。</p> <p>(4) 観光客の増加により交通の安全性不足とごみ環境問題が生じていること。 観光客が安心してまち歩きを楽しめる環境の整備が求められている。 戦略的重点施策は一番街周辺の交通円滑化方策の検討、観光客の増加対応。</p> <p>5 快適なまち歩き空間の創出 平成元年にNHK大河ドラマ「春日の局」が放送され、電線類地中化事業を開始、平成2年に歴みち事業の整備を開始、平成7年に大正浪漫夢通り（旧銀座商店街）のアーケードを撤去し、重点的に町並み整備が行われた結果、平成8年に時の鐘が「残したい日本の音風景100選」（環境省）に、平成11年に一番街周辺部が「重点伝統建造物群保存地区」に選定された。</p> <p>6 観光関連団体と役割</p> <p>(1) 川越市 受入れ環境整備、インバウンド、川越まつりの運営、観光施設の運営等</p> <p>(2) (一社) DMO川越 データ収集・分析、観光戦略会議の運営等</p> <p>(3) (株) まちづくり川越 小江戸蔵里（指定管理者）、観光案内所の運営（受託）</p> <p>(4) 川越商工会議所 商工業事業者の支援、商店街の支援</p> <p>(5) (公社) 小江戸川越観光協会 観光キャンペーン、会員事業者の支援</p>
<p>所 感</p> <p>※視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光関連団体との関わり方が観光振興に必要である。異質なものが観光の目玉。年代によっても異質と感ずるものが変わる。原点となる目玉に何を追加するか。岡崎市はよく頑張っている。 ・グリーンツーリズムの推進として、岡崎市内のぶどう園など果物や野菜の直売所マップを作成し配布をしていくことを提案する。歴史文化遺産の把握と課題の整理、歴史的風致の向上を図る事業を推進していくことを提案する。岡崎市内の小学校や中学校の郊外学習の

際に歴史の学習と観光地の認識を効果的に連携させることを提案する。観光振興について長所を生かし、短所を克服するために、SWOT分析として、外部環境や内部環境を、強み、弱み、機会、脅威といった4点のカテゴリーに分け、要因分析する手法を取り入れていくことを提案する。

- ・観光協会とDMOの役割分担がしっかりとできていることで、取り組むことができる。課題や、新たな事業を展開していく可能性が広がることが分かった。また、交通に関しても本市と同様に課題があり、試験的な歩行者天国の導入などでアクションを行いながら対策を講じている様子について学んだ。市民の安心・安全な生活を守りながら、観光客の回遊を最大限確保できるような環境づくりが本市においても必要があると感じている。インバウンド観光についても具体的な成功実績とその取組について聞くことができたので、本市にも積極的に県との連携や具体的なアクションについて提案していきたい。
- ・本市と川越市には、人口、歴史、都心からの距離など類似点が多い。しかしながら、川越市にある「蔵造りの町並み」など観光消費と結びついた歴史的風情のある景観は本市にはない。日常的に観光客が訪れる町となるためには、広範囲にわたりかつ雰囲気のある商店群が必須であると考え。本市も歴史的風情ある町並みがないわけではないが、現時点においては、「雰囲気のある商店群」が集積しにぎわうには課題が多い。そこで必要とされるのは、人々が集積しにぎわう仕掛けづくりである。人々を商店群に誘導し、にぎわいをつくることで、結果的に、にぎわっていて繁盛している「雰囲気のある商店群」とするのである。本市も当然行っているであろうが、日常的に観光客が訪れる町となっていないことには理由があり、分析し対策を講ずる必要があると考え。本市も川越市も観光関係者アンケートでは「交通」に課題があるとされている。駐車場不足、渋滞という共通の問題に対し、本市も川越市も大イベント時のパーク・アンド・ライド、サイクルシェアなどで対応しているところは同じ。しかし、川越市の問題には観光客増加により車道に歩行者があふれるというものがあつた。その点、本市は、事前に歩きたくなる町にすべく対応している点が優れていると思う。観光客を集める準備はなされている。人口は似ているものの自動車保有台数を見ると本市は1.5倍であり、本来、比べ、言及すべきではないが、川越市は公共交通業者5社が観光中心地近隣に乗り入れており、自動車の集中を緩和している。観光客が不満な点が市内の交通に集中する本市も、観光中心地近隣への、または、周辺観光スポットへの公共交通網を充実させるべきと考える。現在も形成され続ける「蔵造りの町並み」は市としてはノータッチとのこと。「蔵造り」の所有者の

意向で賃貸や改装が行われている。市ではなく川越蔵の会など民間で取り決めを行うとのこと。市民による保存運動に連動して行政は電線類地中化など整備事業を実施。国から保存地区に選定される。本市でも同様のケースが起こり得るのであれば、川越市を目指し課題を解決すべきである。川越市観光振興計画を拝見するに、DMO川越によるものと思われる、現状と課題の分析整理、マーケティングと戦略が綿密に行われており、直近ではコロナ禍の影響はあるものの、入り込み客数増加につながっていると思われる。岡崎市観光基本計画でも同様に現状と課題の分析整理が行われているものの、コロナ禍による影響との結論づけが過ぎるのではと感じる。コロナ禍以外の課題、例えば観光資源のブラッシュアップ不足、公共交通網など市内回遊手段の不足など課題をしっかりと捉え、ポストコロナを見据えた観光施策を期待する。

- ・川越市の観光事業は、地の利を最大限生かし、五つの観光関連団体（市、商工会議所、観光協会、DMO、まちづくり会社）や地元商店街等とうまくすみ分け、協力しながら進化させることができていると感じた。また、コロナ前のことだが、珍しいと思うが川越市はタイ王国からの誘客に成功している。鉄道事業者や埼玉県と共にタイ王国への営業・企画商品にも力を入れた成果であり、今後営業先としても参考にすべきと感じた。
- ・川越市蔵造りの町並みへの出店に関しては、商店組合などが関わらず、店舗オーナーが独自で対応していることに驚いた。需要があるからこそである。観光入込客数は令和元年度で750万人を数えている。観光消費額は300億円くらい。経済効果はざっと500億円くらいとなる。現在は滞留時間を延ばすための方法を検討している。DMOと観光協会が別々に存在している。人流解析やビッグデータを活用してさらに発展を目指している。地勢など同じような本市にとっては学ぶべき点は多い。行政主導ではなく地域民の活力が主体であることが肝心。
- ・川越市といえば小江戸というくらい鮮明にイメージできる市であり、かつ観光資源は豊富にある。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客数は国内外ともに激減した。国内においては半減し、外国人観光客に至っては9割近く減少している。川越市の第一次観光振興計画の見直しを行う時期であったが、状況を鑑み1年遅らせて「第二次観光振興計画」のスタートを令和4年度からの4年間としたのは臨機応変な対応であると感心した。各施策の課題として「観光時間が短い」、「ICTの活用が不十分」、「外国人観光客の環境整備」、「交通安全、ゴミ問題」、「地域内外の連携」があり、特に「観光時間が短い」点は日帰り観光がほとんどで、すなわち宿泊に至らない点は本市が長年抱える課題と共通であった。

	<p>今後、回遊性を持たせる、農業など他産業とコラボさせ体験型の観光も検討していくと説明を受けた。本市も岡崎城や神社仏閣など歴史的な施設が多いことを利点と考え、回遊性を持たせた観光の展開、また、額田地域へは短時間で移動できる環境を利用し自然と触れ合える事業を展開していくことも積極的に取り組んでいくべきと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越市が今日のように観光都市として成果を上げ出したのも、行政の努力もさることながら地域住民が「自分のために何をするか」を真剣に考えたことが原動力であったと感じた。川越市も本市と同じように、観光客の滞在時間が短いという悩みを抱えているが、本市と同様に一般企業とタイアップして農・工産業の体験型ツアーへの取組等を行っていた。川越市は、市民・企業・団体と上手に連携を図り、町を挙げて観光産業に努力している様子を感じることができた。以上が所感であるが、本市にあっても川越市にあっても職員同士が考える内容は大きな差異はないと思う。ただ大きな違いは、執行部と議会が観光に対して意識がどれだけ高いか、やる気があるか、その違いだと感じた。
<p>委員長の総括</p>	<p>コロナ以前の観光で訪れたお客さんの行動を的確に把握した上で、コロナの状況を把握しながら、観光振興計画の改訂版を当初の予定より一年遅らせて進められたことは、良い判断だと感じた。より具体性を持って進められる政策、事業になっていると思った。観光資産に関してのブラッシュアップは、地元の住民の協力なくして進められない。その辺りの苦労は、大変参考になった。本市の観光資源をどうしていくのかは重要な課題であり、住民からの協力体制の構築に力を注ぐべきと考える。</p>